

青年の家の現状と課題

1 検討の背景

昭和 51 年に設置された青年の家は老朽化が著しく、「高岡市公共施設再編計画」においては、長期（H40-H47）で廃止という方向性が示された。施設の 3 階には、希少価値のある能舞台が設置されており、今後のあり方を検討する必要がある。

2 施設の特徴

- ・青年の家は、生涯学習の一環として、伝統文化・レクリエーション等の活動の機会を提供し、余暇の充実と教養の向上を図るため、教室・講座・若者交流支援の事業を開催している。研修室等の施設は、市民の学習・文化活動・芸能活動・体育活動・レクリエーション等で利用されている。
- ・3 階ホールの能舞台は総ヒノキ造りで希少価値があり、能楽をはじめとする古典芸能などに活用されている。

3 課題

- ・能楽は「文化創造都市高岡」を構成する重要な要素であり、その稽古・発表の場である能舞台は代替施設が市内にはなく、その必要性が求められる。